



NO. 577
発行
2006・8月19日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

年内解決めざす

この流れを押し戻してはならない
このまま突き進んでいきたい

この機に解決を

支部代表者会議が八月五日一三時半より、地本事務所で開催されました。はじめに、守橋委員長から全大会の報告がありました。

今回の全大会は①国鉄闘争の年内解決をめざす②輸送の安全・安定の強化③政治課題など安全にかかわること。などの方針を確立する大会でした。



全大会に建交労・佐藤委員長や国鉄共闘・二瓶議長が来賓あいさつをしました。

基本は政治解決を 図っていく

政治解決を図っていくが、しかし新たな訴訟をく国労と提訴していない原告団が提訴する。形態・時期は闘争団全国連絡会議と弁護団との連携で中央執行委員会が判断する。鉄建公団訴訟等の支援は継続していく。

具体的な要求

政治解決＝具体的要求（雇用・年金・金銭）は、闘争団全国連絡会議



が、まとめた要求を国労として受け入れるが、四団体などの摺りあわせが必要。基本的には変わらないが内容に、はばがある。



大衆行動・闘争団を支える活動の継続強化。ILO対策の強化。支援共闘の強化のため、再結集が全国にある力の結集は大きな力になる。中里議長の留任の要請が、代議員からあった。

全体の合意のために、機関会議の開催。臨時大会の開催もある。状況の推移をみて機関会議を開催する。

政治闘争の強化を

大会では、②安全・安定輸送の確立・労働条件の改善③組織強化・拡大など多くの意見が出されました。

政治闘争では、窓口が民主党・北海道議連を中心に進めています。これを、すべての野党に働きかけることや民主党全体で取り組まれるように進めていく。

新たな訴訟について

訴訟については、①地位確認②損害賠償1本③それぞれの意見④意見として出されていないなどあるが具体的内容については、闘争団全国連絡会議と弁護団でまとめ、扱いは中央執行委員会の判断とする。

書記長集約で『この流れを押し戻してはならない・このまま突き進んでいきたい』とありました。頑張りましょう。

物販をめぐる 問題について

音威子府物販の直販が、新潟で行なわれています。各支部内で混乱が出ています。

地本は、函館物販を取り組んでいます。今後も変わりません。国労内でも混乱が出ています。地本方針から～国労組合員がこの行動に加担して欲しくありません。



第五十八回

定期地方大会
九月九日～一〇時

新潟市

「トークイン新潟」





東日本本部大会開く 田澤さん発言



大会に参加して

第二〇回東日本本部定期大会が東京・芝弥生会館で開催されました。今年は傍聴で大会に参加をしました。大会代議員・大会役員など会場は熱気に包まれていました。傍聴者が多くびっくりし厳しい環境の中での傍聴でした。

代議員の発言は一九名でした。残念なことに貨物職場からの発言がありませんでした。非常に残念でなりません。

地本・教宣部 藤井明人



田澤さん発言

田澤さんは大会で、四番目に発言しました。

①羽越線事故の報告・支社への緊急申し入れ。
 ②労働条件や安全・安定輸送確立についての申し入れ、具体的問題点の指摘など報告しました。
 ③今年、発生した羽越線土砂崩壊の報告など、安全にかかわる取組みが発言されました。



発言内容は

発言では①国鉄闘争②職場の実態の報告③安全問題④昇進和解後の職場の変化など多くの発言がありました。

★国鉄闘争は全国大会で決定した方針を全体で確認し、政治的解決を基本に運動を進めていく。★昇進和解で会社や組合員が変わってきている。昇進試験の合格者が増えている。時間外で職場で新採者と面接ができる。未加入で配属されている。★合理化が進み、運転事故・障害事故が多発している。車両・大型の設備機器などの重大事故が発生しているが会社は具体的に改善をしようとしていない。(リフティングジャッキの故障で車両が落ちる・気動車推進軸の折損) ★駅のひとり勤務・リモートマルス導入などで利用者からの苦情が多発・労働強化が若年退職へ。

★六十才雇用(嘱託・再雇用)面接で決定している。国労OBとの共同の運動を進めていく。★女性社員の環境や労働条件改善のために女性社員の採用を。産休の有給化・女性の働きやすい職場を。

★詳しくはエリア本部情報の参照を

